

「えんたく」を始めよう

本ガイドラインは、ATA-NET の「えんたく」を使って、対話の場を作ろうと試みる方々の参考になることを目指して、ATA-NET 性問題行動班の三年間の「えんたく」実施に基づいて試作したものである。従って、ATA-NET 全体の見解というよりは、性問題行動班の見解であることをお断りしておく。

「えんたく」を実施しようと考えるとき、「えんたく」という方法が適切か、適切だとすると、どういう形態の「えんたく」を用いることが良いのかまず検討する必要がある。

「えんたく」は、会場にいる人びとみんなの声を響かせたいときに最適である。誰かの知識や情報を伝える、学ぶといった目的が優先される場合には、別の方法がより適切かもしれない。

(1) 「えんたく」の種類

A 「えんたく A (Addicts)」

「えんたく」の目的として、当事者（嗜癖・嗜虐行動を変化させたいと希望している人）が自身の気持ちや考えを広げ、深め、言葉で他に話し、また他の当事者の話を聞くことによって独りではないことに気づいたり、視野を広げるといったことが主になる場合、それは「えんたく A (Addicts)」と呼ばれる。これはいわゆる自助グループや、専門家が進行する支援グループにあたる。

B 「えんたく B (Bonds)」

当事者を中心としつつも、周囲の人々、家族や支援者たち、さらにはコミュニティの人びとの理解を広げ、絆を強化していくことを主たる目的とする「えんたく」である。知識や情報の伝達以上に、感情や体験の分かち合いが重視される。結論を出すというより、参加者一人一人が自身を振り返りつつ、つながりを感じるということが大切にされる。個人的な感情や体験を分かち合うため、安心・安全な場が確保されることが不可欠であり、会場の大きさや参加人数は、互いの顔が直接見えることが望まれる。

C 「えんたく C (Collaboration)」

より広く社会に理解を求め、知識や情報を広げたいときに使う。当事者も当然声を発するが、専門家や支援者もより多く参加し、個人の話というよりは、知識や情報を共有し、社会の中に支援の協働を作っていくことが目標になる。したがって、SNS による発信や動画配信といった手段を用いて、直接顔が見えない相手にも届けることもあり得る。

(2) 「えんたく」進行の手法

ATA-NET 全体では、「えんたく C」が実施されており、そこでは「沖縄式えんたく」という手法が用いられている。「えんたく C」は、シンポジウムの進行を、より民主的で双方向のコミュニケーションを豊富にする工夫が行われている。

ると考えることもできる。

性問題行動班ではもふもふネットの活動として、「えんたく A」を日常的に行っているが、これらはその性質上非公開であり、また実施方法については、自助グループでの体験やグループアプローチの学習など専門的に学ぶ必要がある。

「えんたく B」は当事者グループ等「えんたく A」で話し、聞き、言葉を得た当事者たちに参加してもらうことが望ましい。そうすることによって、当事者たちにとって、えんたくに参加することが有意義な体験となり、当事者以外の参加者にとってもより意味ある体験となる可能性が高くなる。現在の日本では、まだまだ自助グループやグループ・アプローチの実践が少なく、その点も今後の課題となってくるが、それはまた別の課題である。

性問題行動班で実施する「えんたく B」では、進行手法として、リフレクティング・トークまたは治療共同体的サークルが用いられている。

(3) 本報告書のねらい

本報告書では、ATA-NET 研究プロジェクトで平成 29 年度から性問題行動班が実施した「えんたく B」の実践を中心に、特にリフレクティング・トークを用いた実施の実際をまとめ、ガイドラインを試作する。各実践については、これまでの報告書にまとめられているので、それも参照願いたい。

令和元年度には、もふもふネット主催の「えんたく B」に限らず、別団体主

催で行う「えんたく B」の実施を請け負ったり、助言を求められることも増えた。そうした実施のサポートの経験も踏まえて、「ガイドライン：『えんたく』の始め方・進め方」が、今後「えんたく B」を実施しようとする人びとの参考になり、「えんたく B」の実施が増え、良い体験を広げていく一助になればありがたい。

(4) 実践例

これまでに公開で実施した「えんたく」は以下のようなものである。ガイドでは適宜これらの実践例に触れながら記述する。

1 2017年7月 @広島 「刑務所とその後の暮らしを考える」

午前中講義

「犯罪からの離脱と回復」(大阪大学 藤岡淳子)

「北欧の刑務所におけるリフレクティंगの展開」(熊本大学 矢原隆行)

午後えんたく リフレクティंग・トーク形式

内円①受刑経験のある男性 3名

内円②受刑経験のある男性の家族 3名

内円③刑務所現場職員 3名

内円④司法・行政機関管理職 3名

2 2017年12月 @加古川 「出所者の社会移行を考える～当事者の語りから」

兵庫大学BBS会から受託

午前中講義

「刑務所から社会へ戻るとき①」(大阪大学 藤岡淳子)

「 同上 ② 」 (兵庫県地域生活定着支援センター 益子千枝)

午後えんたく サークル形式

島根あさひ社会復帰促進センター回復共同体経験者 6名

支援者3名

3 2018年7月 @豊中市 「被害者・加害者・支援者は断絶をこえていけるか？」

～『えんたく』を用いて、つながりを作り始める試み」

午前中講義

「被害者・加害者・支援者は断絶を超えていけるか？」(大阪大学 藤岡淳子)

「性被害を受けるという事」 (大阪大学 野坂祐子)

午後えんたく リフレクティング・トーク形式

内円①性被害体験のある女性 3名

内円②性加害体験のある男性 3名

内円③性暴力に関わる支援者 3名

4 2018年9月 @島根県浜田市 「島根あさひ社会復帰促進センター出所者の

話を聞く」 (株)SSJからの受託

えんたく リフレクティング・トーク形式

内円 島根あさひ社会復帰促進センター出所者 3名 と 刑務官 1名

5 2018年12月 @大阪市 「性問題行動に対する治療教育的アプローチ～こ

れまでの10年、これからの10年」

午前中講義

「多様化するアディクションと回復支援～「えんたく」という考え方」

(龍谷大学 石塚伸一)

「子どもの治療教育～黎明期のはなし」 (大阪府 浅野恭子)

「暴力を『ない』ことにするのか、暴力の『ない』社会にしたいのか

～トラウマのメガネで見えてくる課題」 (大阪大学 野坂祐子)

「これからの10年」 (大阪大学 藤岡淳子)

午後えんたく リフレクティング・トーク形式

内円①治療教育プログラム未体験者 4名

(児相職員、教育委員会職員、被害児童母、新聞記者)

内円②治療教育プログラム体験者 4名

(養護教諭、児相職員、児童自立支援施設職員、性加害行為回復者)

6 2019年8月 @大阪市 「家庭内性虐待への対応～「えんたく」を用いて、被害者の声を聴き、「専門家」と「市民」がより適切な対応を考える」

午前中講義

「家庭内性虐待への法的対応：現状と課題」(弁護士 笠原麻央)

「家庭内性虐待被害者の心理と適切な対応について」(大阪大学 野坂祐子)

「家庭内性虐待の特徴」(大阪大学 藤岡淳子)

午後えんたく リフレクティング・トーク形式

内円①家庭内性虐待被害体験のある女性 3名

内円②家庭内性虐待被害を受けた娘を持つ母 3名

内円③性暴力に関わる支援者 3名 (弁護士、少年警察、刑務所職員)

7 2019年12月 @倉敷市 「被害と加害の対話～その課題と展望」

CAPおかやまからの受託

午前中 パネルディスカッション

「加害について」(大阪府社会復帰支援員 安藤麻紀)

「被害について」(大阪大学 野坂祐子)

「加害行為への支援等をして感じる事」(大阪保護観察所 喜多 彩)

「子どもや地域支援等をして感じる事」(大阪大学 坂東 希)

午後えんたく リフレクティング・トーク形式

内円①性被害体験のある女性 3名

内円②性加害からの回復男性 3名

内円③性暴力に関わる支援者 3名